

小委員会の調査報告書

教科名	国語科	委員長名	関 谷 克 志
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(火)に、稚内市生涯学習総合支援センターで開催し、国語小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月3日(水)から7月21日(日)まで、「教科書見本本」、「教科書編修趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月22日(月)に、稚内市生涯学習総合支援センターで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東京書籍(東書)、学校図書(学図)、教育出版(教出)、光村図書出版(光村)、の4者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(4) 「その他」について</p>		
調査研究に当たった際の配慮事項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の活用、思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等の発揮による資質・能力の育成に対応できるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習内容、発展的な学習内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 児童の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>		
少数意見その他			

様式 2

教科名		国語科				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
	東京書籍	新しい国語	2	学校図書	みんなと学ぶ小学校国語	11
取扱内容	<p>○知識および技能については、昔話や神話、ことわざや故事成語、「竹取物語」や「平家物語」など我が国古来の文章に触れ、調べたり音読したりする活動を通して親しみ、理解できるようにしている。</p> <p>○話すこと聞くことについては、伝え合いや話し合いの活動を通して、日常生活の中で人と関わり合いながら伝え合う力を高められるようにしている。</p> <p>○書くことについては、日常生活の中での書く活動を通して、自分の思いや考えを持ち、まとめ、広げられるようにしている。</p> <p>○読むことについては、広告、新聞記事など複数の文章を読み比べる活動を通して、表現方法の違いを読み取り、その目的や意図に気づき、表現につながるよう工夫されている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、身につけたい「言葉の力」や1年間の学習のめあてを巻頭に示すことで、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p>			<p>○知識および技能については、各単元の脚注に巻末「国語のカギ」ページとのリンクが載っており、つけたい力を確実に定着させるためのポイント等確認できるようになっている。</p> <p>○話すこと聞くことについては、上巻のはじめに言葉を使った楽しい活動が設定されており、話し合いのルールを学び、学習環境を整えられるようになっている。</p> <p>○書くことについては、説明文教材のすぐ後に同じ題材の書くことの教材を排列することで、学習の関連を図ることができるようになっている。</p> <p>○読むことについては、子どもの「問い」を引き出すため「ふきだし」形式の脚問等の工夫があり、文章と対話しながら読みを深められるようになっている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「つけたい力」や国語の学習の進め方を巻頭に示すことで、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○構成、排列については、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されており、主体的な学習を促すため、「つかむ」「取り組む」「振り返る」で構成されている。また、単元末だけではなく、学年末にも振り返る場面を設け、自分の成長を実感することで学び続ける思いが持てるよう構成されている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～310ページ（1%減）、第2学年～342ページ（2%減）、第3学年～356ページ（3%増）、第4学年～310ページ（±0）、第5学年～303ページ（2%減）、第6学年～303ページ（4%減）となっている。</p>			<p>○内容の構成、排列については、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されており、論理的思考力、創造的思考力、コミュニケーション能力、追求力の四つの力を支えに、国語の学習を通して「問題解決能力」を育てられるよう関連づけながら単元が構成されている。</p> <p>○内容の分量については、第1学年～264ページ（1%増）、第2学年～276ページ（5%減）、第3学年～306ページ（3%増）、第4学年～310ページ（±0）、第5学年～336ページ（±0）、第6学年～326ページ（4%減）となっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○友達に好きな教科について伝える活動や、身近な人に行事を案内する手紙を書く活動を通して、相手意識や目的意識を明確にするとともに、教材と関連のある図書の紹介を掲載するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○巻頭に「国語の学習の進め方」や「言葉の力」を設け、年間を通して学習することを明確にしたり、シンプルなレイアウトや色使いにより、大事な情報に着目できるようにするなど使用上の便宜が図られている。</p>			<p>○「学習のてびき」に学習のプロセスを示したり、「○年生をふり返って」で1年間の学びをふり返り、今後の学習に生かせるようにしたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。</p> <p>○上巻の巻頭に「見つける・見つめる」を掲載し、身の回りから語彙や出来事を書きためることができるようにしたり、ユニバーサルデザインに配慮し、文字の大きさ、書体、囲みや罫線による地の文との区別、色使いなどのレイアウトを工夫したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
その他	<p>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p>			<p>○学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。</p> <p>○5・6年もランドセルの重さに配慮し、上下巻に分冊されている。</p>		

様式 2

教科名		国語				
	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		教育出版	国語	17	光村図書	国語
取扱内容	<p>○知識及び技能のうち、言語文化の内容については、かぞえうた等の「ことばあそび」→俳句短歌等の「日常生活に生きる文化」→漢詩や古典等の「世界に触れる」のように低中高の各段階に合わせて、言語情報では他教科等との関連が図りやすいようになっている。</p> <p>○話すこと・聞くことについては、全学年を通して「決めよう・組み立てよう・書こう・伝え合おう」の4ステップ構造の学習の進め方で、見通しをもちやすくしている。ペア・グループ・ディベート・パネルディスカッション等の言語活動も充実している。</p> <p>○書くことについては、上記の4ステップに「読み返そう」を加えた5ステップの学習構造に統一し、さらにポスター・リーフレット・ポップ等の作成の要点を図やイラストでわかりやすく提示している。</p> <p>○読むことについては、「たしかめよう・考えよう・深めよう・広げよう」の4ステップ構造で、読みを深め、言語活動へ展開しやすくなっている。新旧で教材の変更があるが「スイミー」「山のあなた」等の名作や「雪は新しいエネルギー」「うめぼしのはたらき」等汎用性のある教材が採用された。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、新しく「てびき」で言葉をカテゴリーに分けて提示して語彙の自然な習得が図られるよう考慮されている。</p>			<p>○知識及び技能については、昔話の読みきかせ、短歌や俳句のリズム、「竹取物語」「平家物語」等の古文のリズム等を楽しみ味わいながら音読する活動が設定されている。また、身近なことを表す言葉や敬語等の使い方に慣れるための活動も工夫されている。</p> <p>○話すこと・聞くことについては、問題を出し合う、司会や記録、グループの話し合いなど他者と関わる学習を設定し、途中段階で交流して更に良い伝え合いになるよう、学習を深められる工夫がされている。</p> <p>○書くことについては、おもちゃの作り方、仕事の報告や新聞作り、意見文やパンフレット等を作る活動に、「情報」の「引用」の技能を使って書くことを取り入れられるよう、必要性のある題材を設定している。</p> <p>○読むことについては、説明的文章と文学的文章からバランス良く題材を選び、物語の紹介や伝記等、自分の考えとの比べ読みや人との関わりの中で伝え合う力を高め立てるような学習展開ができるようになっている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、2年生以上の教科書に「言葉の宝箱」を掲載し、学習した言葉を繰り返し振り返ることができるように考慮されている。</p>		
内容の構成・排列・分量	<p>○構成・配列については、1・2年、3・4年、5・6年の各2年間を通じて系統的・発展的に学習できるように工夫されている。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元を繰り返しながら螺旋的に学習が積み上げられるように配置されている。</p> <p>○分量については、第1学年310P（9%増）、第2学年324P（9%増）、第3学年320P（7%増）、第4学年342P（10%増）、第5学年332P（8%増）、第6学年336P（2%増）となっている。</p>			<p>○構成・配列については、2学年を通じて系統的・発展的に学習できるよう、扱う内容に関連をもたせたり、各単元の巻頭に前学年で学習したことをポイントをまとめて振り返ることが出来るようにしたりする工夫がみられる。</p> <p>○分量については、第1学年268P（1%増）、第2学年320P（16%増）、第3学年320P（10%増）、第4学年324P（9%増）、第5学年296P（4%増）、第6学年310P（9%増）となっている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○てびきの中に「ここが大事」を提示し、他教科等にも汎用性のある用語やポイントを紹介している。</p> <p>○上下巻に双方の目次を掲載、巻頭に「○年生で学ぶこと」を配置し、学習する単元を道順に示す等、1年間の学習内容を俯瞰できるように工夫されている。</p> <p>○旧教科書よりもやや大きめの新しいフォント（UDフォント）を使用し、行間も広めにし読みやすくなっている。</p>			<p>○1・2年生の新出漢字については、各教材文のページ内に筆順を示し、日常的に目に触れる工夫をして要る。また、太字のフォントを使ったり、単語や文節の途中で改行しないように表記したりして、低学年の発達段階に考慮している。</p> <p>○「学習」や「学習の進め方」で、各単元の学習過程を明示し、見通しをもって学ぶことができるように工夫されている。</p> <p>○学習の振り返りがしやすいよう、チェック欄が設けられている。</p>		
その他	<p>○「まなびリンク」でウェブサイトに関連するようになっており、児童の関心・興味に合わせて更に情報を得られるようにしている。</p>			<p>○学習者用デジタル教科書のほか、指導者用デジタル教科書（Tサポート）の発行が予定されている。</p> <p>○教科書連動コンテンツもある。</p>		